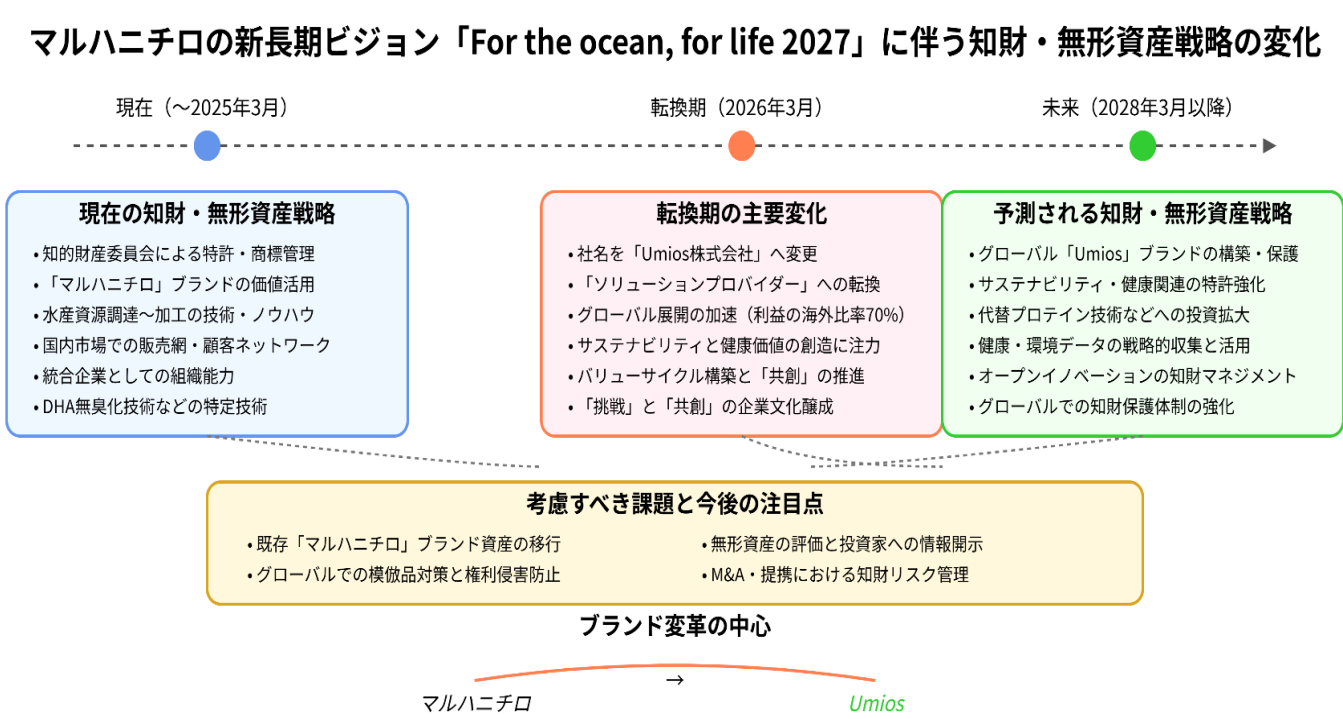


マルハニチの新長期ビジョン・中期経営計画「For the ocean, for life 2027」により、マルハニチロの知財・無形資産戦略はどう変わるか？

Felo AI



概要

マルハニチロ株式会社が 2025 年 3 月 24 日に発表した新長期ビジョンおよび新中期経営計画「For the ocean, for life 2027」は、同社の知財・無形資産戦略に大きな変革をもたらすことが予測されます。社名を「Umios 株式会社」へ変更

し[1][4][6]、「ソリューションプロバイダー」への転換を目指す中で[1][4][6]、特に「グローバル展開の加速」、「サステナビリティと健康価値の創造」、「共創による価値サイクルの構築」が知財・無形資産戦略の新たな柱となるでしょう。これまでの知的財産権の保護・活用に加え、ブランド価値の再構築、サステナビリティ関連技術や健康増進に資するノウハウ・データの戦略的蓄積と活用、そしてグローバルでのバリューチェーン全体の競争力強化に繋がる無形資産の創造と保護が一層重要になります。

詳細レポート

マルハニチロの現在の知財・無形資産戦略（新計画発表前まで）

マルハニチロは、これまでも知的財産の保護と活用を重視してきました。同社は知的財産委員会を設置し、経営戦略に即した出願・活用戦略を推進しています[20][26]。具体的な取り組みとしては、事業の核となる技術の特許化や、長年培ってきた「マルハニチロ」ブランドおよび商品ブランド（例：「いわし缶」「さば缶」など[14]）の商標権による保護が挙げられます。

広義の無形資産としては、以下の要素が現在の強みと考えられます。

- **技術・ノウハウ:** 水産資源の調達から加工、食品製造に至るまでの長い歴史で培われた高度な技術力（例：DHA 無臭化技術[16]）、品質管理ノウハウ。
- **ブランド・信頼:** 「マルハニチロ」という社名自体が持つ、食品業界における長年の実績に裏打ちされた高い知名度と信頼・レピュテーション。
- **バリューチェーン・サプライチェーン:** 世界規模での水産資源調達ネットワーク[22]、国内市場における強力な販売網。
- **顧客ネットワーク:** 長年にわたる消費者との関係、および業務用途の顧客基盤。
- **組織能力:** 統合により培われた多様な事業領域での経験と、それを支える従業員の専門性。

これらの無形資産は、同社の競争優位性の源泉となってきました。しかし、新長期ビジョンおよび新中期経営計画の発表は、これらの無形資産のあり方や戦略的重点を大きく転換させるものです。

新長期ビジョン・新中期経営計画の概要と知財・無形資産への示唆

2025 年 3 月 24 日に発表された新長期ビジョンおよび 2026 年 3 月期から 2028 年 3 月期までを対象とする中期経営計画「For the ocean, for life 2027」[1][5]は、以下の主要な戦略的方向性を示しており、それぞれが知財・無形資産戦略に重要な示唆を与えます。

- **社名変更とブランド再構築:** 2026 年 3 月 1 日付で社名を「Umios 株式会社」に変更します[4][6][17]。新社名「Umios」は、「海 (umi)」「one (一体)」「solutions (解決)」を組み合わせた造語であり[17]、海を起点に、ステ

ークホルダーや社会全体と一体となって食を通じて地球規模の社会課題を解決していくという決意が込められています[17]。これは、従来の「マルハニチロ」ブランドから、「Umios」ブランドへの転換と、グローバル市場を見据えた新たなブランドアイデンティティの確立を意味します。

- **ソリューションプロバイダーへの変革:** 単なる食品メーカーから、食を通じた社会課題解決を提供する「ソリューションカンパニー」への転換を目指します[1][4][6]。これは、製品だけでなく、サービス、システム、ノウハウといった無形資産を組み合わせたソリューション提供能力の強化を示唆します。
- **サステナビリティと健康価値の創造:** 「持続的なたんぱく質の提供」と「健康価値の創造」を中長期的なミッションとして掲げています[4][6][17]。環境負荷低減技術、代替プロテイン技術、健康機能性食品に関する技術やデータの重要性が増します。最近の微細藻類メーカーMara社との業務提携による藻由来DHA事業への参入は、この方向性を具体化する動きです[16]。
- **グローバル展開の加速:** 10年後には経常利益の海外比率を70%以上に引き上げる目標を掲げています[4][31]。ローカライズされたアプローチ（グローカル）[4][6]を取りながら、グローバル市場での競争力強化が求められ、それに伴う各国での知財戦略、ブランド戦略が不可欠となります。
- **バリューサイクルの構築と共創:** 消費者起点の持続可能な価値創造を可能にする「バリューサイクル」を構築し[4][28]、様々なステークホルダーとの「共創」を重視します[1][4][6]。オープンイノベーションの推進や、サプライチェーン全体での価値向上に関わるノウハウやデータの共有・活用、パートナーシップにおける無形資産の取り扱いが重要になります。
- **挑戦と共創の文化醸成:** 新たな価値創造を支える「挑戦」と「共創」の企業文化を育むとしています[1][4]。これは、イノベーションを生み出す組織能力やプロセスの変革を示唆します。

予測される知財・無形資産戦略の変化（シナリオ）

新長期ビジョンおよび新中期経営計画の実行に伴い、マルハニチロ（将来のUmios株式会社）の知財・無形資産戦略は以下のように変化すると予測されます。

シナリオ 1: グローバル市場をターゲットとした「Umios」ブランドの戦略的構築と展開

- **ブランド戦略:**
 - 新ブランド「Umios」のグローバルでの早期認知度向上とポジティブなブランドイメージ（サステナビリティ、健康、革新性）の確立が最優先課題となります。これには、大規模なマーケティング投資と連動した、各国での商標ポートフォリオの迅速な構築・保護（新ロゴデザイン[17]を含む意匠権の活用）が求められます。
 - 既存の「マルハニチロ」ブランドや商品ブランド（例：いわし缶、さば缶[14]）との関連性や移行戦略が重要になります。当面は併存させつつ、徐々に「Umios」ブランドへの統合・集約を進めるか、あるいはサブブ

ランドとして活用するなどの戦略が考えられます。市場からは、既存ブランド資産の刷新に対する懸念の声も一部で見られます[14]。

- 「Umios」ブランドの下で展開される新しいソリューションやサービスに関するブランドストーリー構築と、それを裏付ける信頼・レピュテーションの醸成が不可欠です。

- **コンテンツ・デザイン戦略:**

- グローバルに共感を呼ぶブランドメッセージやストーリーを多言語で発信するためのコンテンツ（映像、ウェブ、SNS など）制作とその著作権管理が重要になります。
- 製品パッケージデザインやウェブサイト、広告物など、顧客とのあらゆる接点において、「Umios」ブランドの世界観を統一的に表現するデザイン戦略と、その意匠権・著作権による保護が求められます。

シナリオ 2: サステナビリティと健康価値を核とした技術・ノウハウ・データの知財ポートフォリオ強化

- **技術戦略（特許・ノウハウ）:**

- 「持続的なたんぱく質の提供」のため、代替プロテイン（植物由来、細胞培養、昆虫食など）、持続可能な漁業・養殖技術（環境負荷低減、飼料開発など）、資源管理技術に関する研究開発を加速し、戦略的に特許網を構築します。Mara 社との藻由来 DHA 事業[16]のような、外部技術の導入や共同開発も積極的に行い、関連する特許権の確保やノウハウの管理を徹底します。
- 「健康価値の創造」のため、機能性食品素材の開発、個別化栄養、プレジジョンヘルスケアに関連する技術開発を進め、特許出願を強化します。DHA[16]のような特定の健康成分に関する独自技術や用途発明の保護が重要になります。
- サプライチェーン全体でのトレーサビリティ確保や食品ロス削減に貢献する技術（例：ブロックチェーン、AI、IoT 活用）についても、特許化やノウハウとしての秘匿を検討します。

- **データ戦略:**

- 消費者の健康データ、購買データ、食習慣データなどを収集・分析し、パーソナライズされた商品・サービス開発に繋げるためのデータプラットフォーム構築と、そのデータベース権や営業秘密としての保護が重要になります。
- サプライチェーン上の環境データ、資源データを収集・活用し、サステナビリティ経営の高度化を図ります。これらのデータの独占的利用や分析ノウハウも無形資産となります。

- **ソフトウェア戦略:**

- データ解析ツール、顧客向け健康管理アプリ、サプライチェーン最適化システムなど、ソリューション提供に不可欠なソフトウェア開発とその著作権保護、場合によってはビジネスモデル特許の取得も視野に入れます。

シナリオ 3: 「共創」をドライブするオープンイノベーションとバリューチェーン全体の無形資産価値最大化

- **パートナーシップ戦略と知財マネジメント:**

- 大学、研究機関、スタートアップ、異業種企業との「共創」を積極的に推進し[1][4]、オープンイノベーションを通じて新たな技術やビジネスモデルを創出します。共同研究開発契約における知財権の帰属、ライセンス条件などを戦略的に設計する必要があります。**Mara** 社との提携[16]はその先駆けと言えます。
- **M&A** や出資も活用し、自社にない技術やノウハウ、顧客ネットワークを獲得することも考えられます。その際のデューデリジェンスにおける無形資産評価が重要になります。
- **バリューチェーン・サプライチェーンの強化:**
 - 資源調達から生産、加工、物流、販売、消費に至る「バリューサイクル」 [4][6][17]全体で、効率性、透明性、持続可能性を高めるためのプロセスやノウハウを構築・共有し、競争優位性を確立します。これらプロセス自体も重要な無形資産となります。
 - グローバルサプライチェーンにおけるリスク管理体制や、各国・地域の規制に対応した品質保証体制の構築も、信頼・レピュテーションという無形資産に繋がります。
- **組織能力・プロセス:**
 - 「挑戦」と「共創」を促す企業文化の醸成[1][4]は、従業員のエンゲージメント向上やイノベーション創出力という組織能力の強化に繋がります。
 - グローバルで多様な人材を獲得・育成し、その能力を最大限に活かすための人事制度や研修プログラムも、人的資本という重要な無形資産を形成します。
 - 意思決定の迅速化や部門横断的な連携を促進する組織構造や業務プロセスの改革も、無形資産価値向上に貢献します。

これらのシナリオは相互に関連し、複合的に進展すると考えられます。新中期経営計画の定量目標である「2028年3月期に営業利益 400 億円、ROIC5%以上、成長投資 1400 億円以上」 [4]の達成には、これらの知財・無形資産戦略の成功が不可欠です。

考慮すべき課題と今後の注目点

- **既存ブランド資産の取り扱い:** 「マルハニチロ」という長年培ってきたブランド資産を、新ブランド「Umios」へどのようにスムーズに移行、あるいは活用していくかは大きな課題です[14]。
- **グローバルでの知財保護とエンフォースメント:** 海外事業比率の大幅な拡大[4][31]に伴い、各国での模倣品対策や権利侵害への対応など、グローバルな知財保護体制の強化が急務となります。
- **無形資産の評価と情報開示:** 投資家やステークホルダーに対して、無形資産の価値や戦略の進捗を適切に評価し、積極的に情報開示していくことが求められます。
- **M&A や提携における知財リスク管理:** オープンイノベーションやグローバル展開を加速するための **M&A** や業務提携が増える中で、相手方の知財ポートフォリオ評価や契約における知財リスク管理の重要性が増します。**Mara** 社

との提携はその一例です[16]。

結論

マルハニチロの新長期ビジョンおよび新中期経営計画「For the ocean, for life 2027」は、同社の知財・無形資産戦略を、従来の保護中心から、価値創造とグローバル展開を牽引する攻めの戦略へと大きく転換させるものです。新社名

「Umios」の下でのブランド再構築、サステナビリティと健康価値を軸とした技術・ノウハウの戦略的蓄積と活用、そして「共創」によるバリューチェーン全体の競争力強化が、今後の知財・無形資産戦略の核となるでしょう。これらの戦略を成功させることが、同社が目指す「ソリューションプロバイダー」への変革と持続的成長を実現する鍵となります。今後の具体的な施策とその成果、特にグローバル市場でのブランド浸透度や、サステナビリティ・健康領域での技術的リーダーシップの発揮が注目されます。

1. [Maruha Nichiro to change its corporate name to 'Umios'](#)
2. [Management Strategy — Maruha Nichiro](#)
3. [\(with script\) Consolidated Financial Results for the FY ended March ...](#)
4. [Maruha Nichiro to become Umios Corp as part of new strategy](#)
5. [Maruha Nichiro to change its corporate name to 'Umios'](#)
6. [Maruha Nichiro will become Umios Corporation on March 1 ...](#)
7. [Management Strategy — Maruha Nichiro](#)
8. [Maruha Nichiro to become Umios Corp as part of new strategy](#)
9. [\(with script\) Consolidated Financial Results for the FY ended March ...](#)
10. [Management Strategy | Management Information | Maruha Nichiro](#)
- 11.
- 12.
13. [マルハニチロ、2026年3月に新社名「Umios 株式会社」へ](#)
14. [マルハニチロ→Umios に社名変更 企業価値は上がる？ 下がる？](#)
15. [勝川 俊雄 on X: "マルハニチロが、umios に社名変更だって ...](#)
16. [微細藻類メーカーの Mara 社と業務提携契約を締結 — 日本経済新聞](#)
17. [～マルハニチロは、2026年3月1日付で社名を変更することを ...](#)
18. [2026年3月1日付で社名を「Umios 株式会社」に変更](#)
19. [Maruha Nichiro will become Umios Corporation on March 1 ...](#)
20. [知的財産 | イノベーション | 品質・研究 | 企業情報 — マルハニチロ](#)
21. [Maruha Nichiro to change its corporate name to 'Umios'](#)
22. [Maruha Nichiro Corporation](#)

23. [Maruha Nichiro to change name as part of new strategy](#)
24. [Maruha Nichiro to change its name — Intrafish](#)
25. [Maruha Nichiro : We have published our Integrated Report 2023](#)
26. [Corporate Governance — Maruha Nichiro](#)
27. [地域・社会への価値 | 「社会価値」の創造 — マルハニチロ](#)
28. [Maruha Nichiro to become Umios Corp as part of new strategy](#)
29. [【弁理士のつぶやき（ときに長め）】「『マルハ』が消える ...](#)
30. [IN BRIEF — Maruha Nichiro Group to Rebrand as 'UMIOS'](#)
31. [マルハニチロ社名変更、Umios（ウミオス）に食を通じた ...](#)
32. [弊社人気のタイトル「両利きの経営」のウェビナー「両 ... — 時事通信](#)